

伊豆大島におけるインバール線式伸縮計による観測*

(1987年11月～1988年5月)

工業技術院地質調査所**

伊豆大島において実施中のインバール線式伸縮計による観測のうち、本期間にテレメータによる観測を実施した測線の位置を第1図に示す。これらのうち、主な観測区間に観測された累積変位量(観測開始時(観測開始時(1986.12～1987.1)を基準とする、また、各観測区間距離は15mを基準とする)の変化を第2図に示す。

本期間に検出された主な変化は以下の通りである。

島の南東部の奥山第1測線、及び奥山第2測線では1987年11月18日から伸張傾向の変化の増大が検出され始め、21日9時11分と10時11分の観測時刻間には、全ての観測区間で伸長の変化が観測された。本観測時刻間には奥山地域を震源とし島内で有感の地震が発生している。その後、12月初旬までには、それ以前の山側の観測区間で伸張が、また谷側では圧縮する変位の分布に戻った。12月初旬以降では、1986年11月21日に形成された本地区の主要な割れ目を横断するOK1-05、OK2-04の観測区間では、ほぼ一定の速度で伸張し、3月中旬から4月中旬までその変化量は少なく、その後再び一定速度で伸張している。

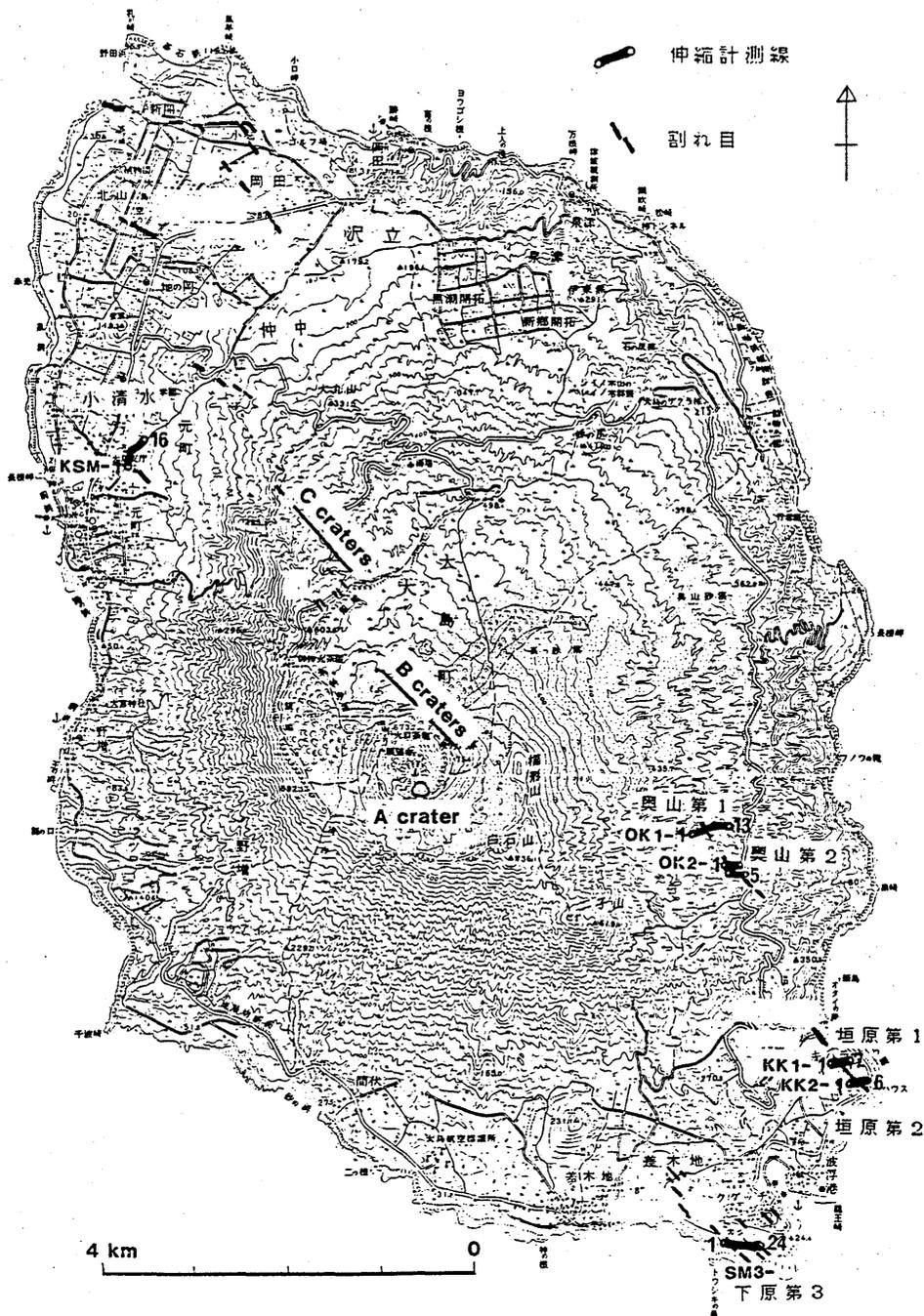
南部の垣原地区では、割れ目を横断するKK1-03、KK2-05、MN2-02、03(MN2-の観測区間は本期間には垣原第1測線の道路を挟んで向い側に移設している)では、縮む変化が継続的に観測されている。なお、この圧縮の変化量には、徐々に増大する傾向が認められる。

下原第3測線のうち、SM3-23の観測区間では、観測開始以来伸張する変化が継続的に観測されていたが、4月中旬以降縮む変化に転じている。

北部の小清水測線では、本期間には明瞭な変化は検出されていない。

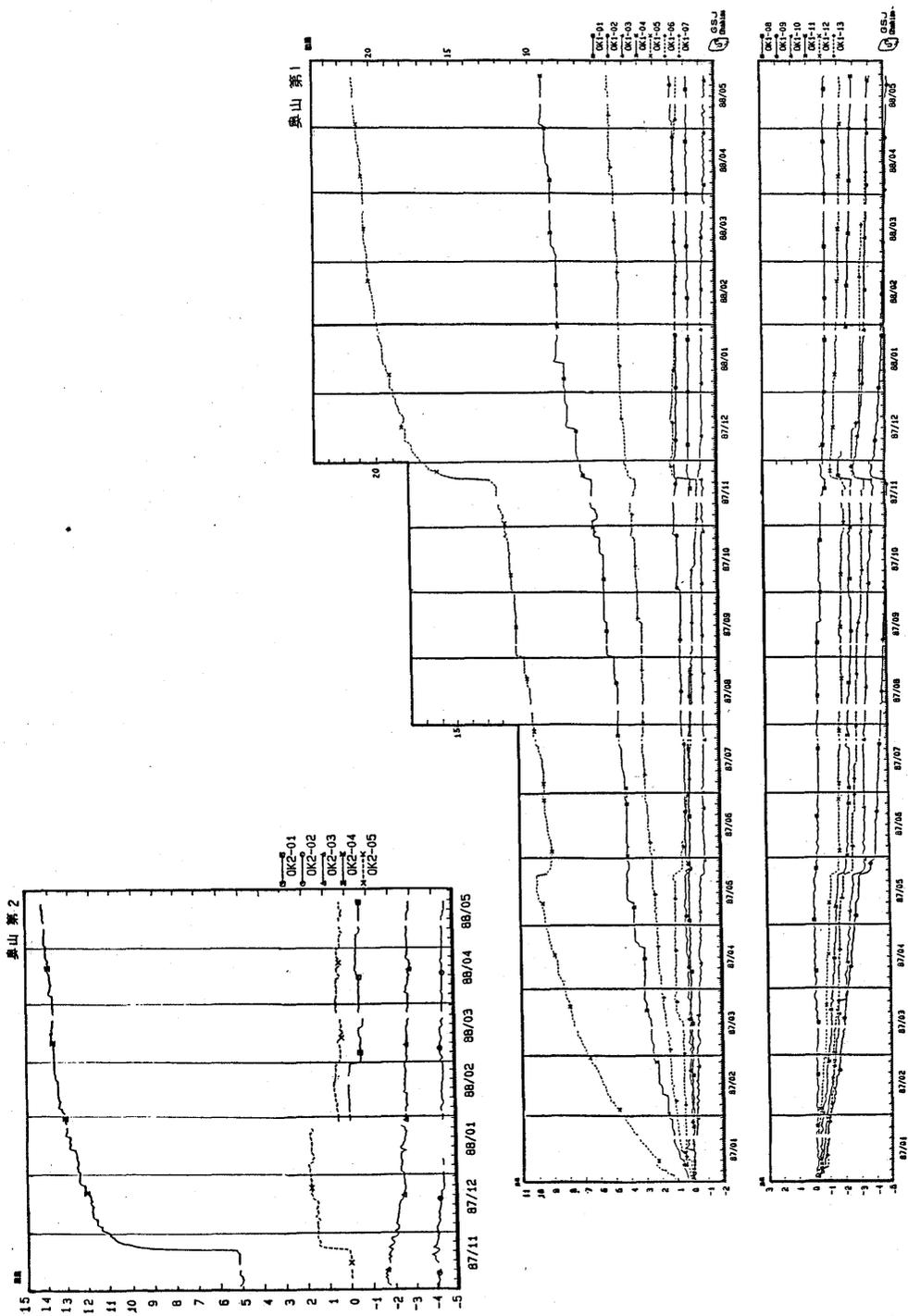
* Received Aug. 3, 1988

** 遠藤秀典



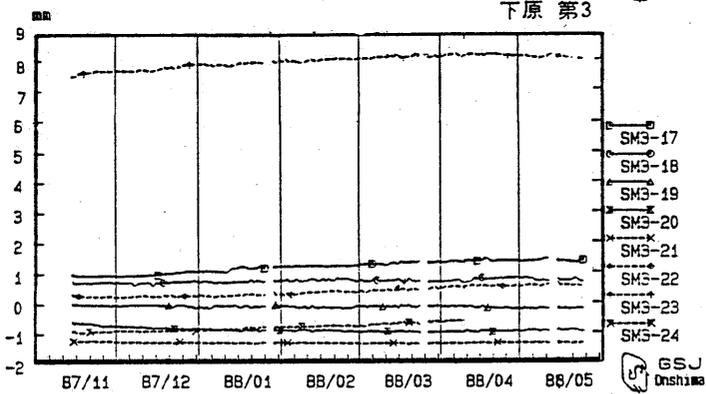
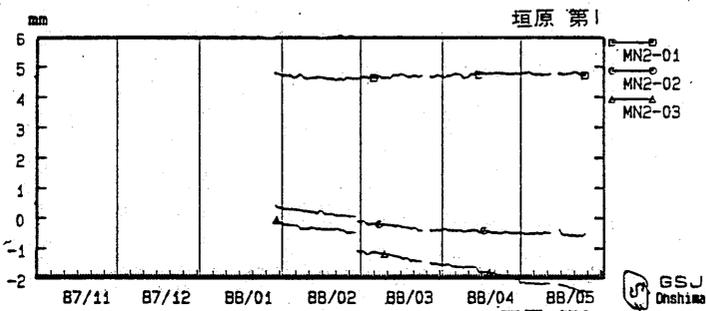
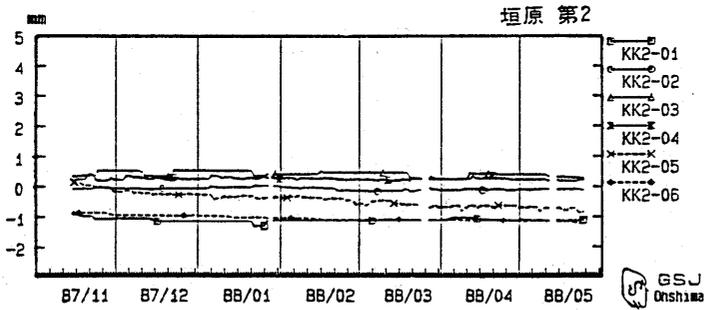
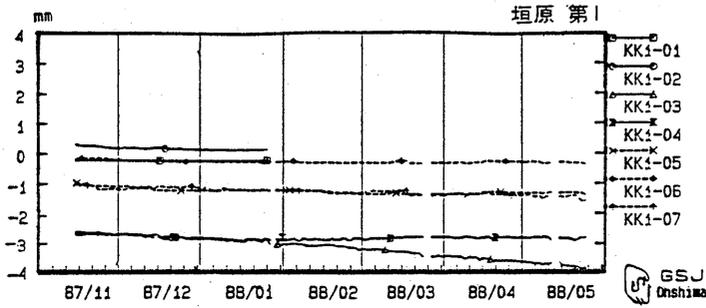
第1図 インパール線式伸縮計観測測線位置図

Fig.1 Location of invar-wire extensometer observation lines.



第2図 累積変位量経時変化図

Fig.2 Daily variations of line length at the extensometer observation lines.



第2図 累積変位量経時変化図 (つづき)